

令和5年度 地域ケア圏域会議 実施結果

高齢者あんしん相談センター えぶりわん鶴瀬Nisi

| 日時及び場所 | 参加者 | 討議内容(地域課題・対応・今後の課題など) |
|--------------------------|---|--|
| 4月20日(木) 13:30～15:00 | <p>医師 1 名 民生委員 3 名 介護支援専門員 3 名 薬局 2名 生活支援コーディネーター 2名 健康増進センター2 名 高齢者福祉課 1 名 危機管理課 1名 高齢者あんしん相談センター 4名</p> <p>計 19 名</p> | <p>「自然災害時の高齢者支援 パート2 」</p> <p>《ケース概要》</p> <p>3月に「自然災害時の高齢者支援」というテーマで圏域会議をした。その際に災害時に心配な事、危険だと感じるところをあげてもらった。要支援者を助けたい気持ちがあっても難しいという意見も多く聞かれた。助け合いも大切だが、「自分の命は自分で守ること(自助)」の重要性を再確認した。埼玉県では災害を「特別なこと(モシモ)」としてとらえるのではなく、「イツモ」の生活の中で自然体で当たり前のこととして取り組む「イツモ防災」事業を行っている。日頃から防災に備える為の心構えについて確認する場になった。</p> <p>《対応》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いらないものは捨て、部屋の整理をし、地震でケガをしないようにする ・夜中に地震でガラスの破片が飛び散っている可能性もあるので、寝るときは上履きを近くに置いておく。 ・今は何でもデジタル化になっている。電気がなくなること考えて紙媒体で必要なものを保管しておくことも必要 ・市役所では地域の特性合わせた出前講座を開催したり、防災ガイドブックの発行を行っている。 <p>《今後の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは自分でできる防災を取り組んでゆくことが大切である。 ・若い方を町会に取り込むことが困難。今後は現役世代とのつながりを考えてゆくことが必要 |
| 7月20日(木) 13:30～15:00 | <p>医師1 名 健康増進センター1 名 薬局 2名 民生委員 3 名 介護支援専門員3 名 生活支援コーディネーター 1名 高齢者福祉課 1 名 福祉政策課 2名 高齢者あんしん相談センター 4 名</p> <p>計 18 名</p> | <p>「複合課題や制度の狭間の課題を考える 」</p> <p>《ケース概要》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・70代の父親と40代の長男との2人暮らし。長男は高校卒業後就職するが人間関係がうまくいかず自殺未遂する。その後ひきこもり就労していない。父の年金で生活している。長男には精神疾患があるようで、集合住宅で徘徊、放尿する。 ・40代の長男が認知症の80代の母親を介護している。長男は自閉症スペクトラムで障害者手帳2級を持っている。親の事で追い詰められ警察署に「もう死にたい」と訴える ・80代両親と40～50代の次男との3人暮らし。認知症の夫を妻が一人で介護する。同居している次男は無職でパニック障害あり。妻の介護負担が大きい。介護保険サービスを正しく理解していない為、適切に利用ができていない。 <p>《対応》</p> <p>縦割り、担い手の垣根を越えてつながりを持ち、我が事としての意識付けには地域の小さなサロン活動を積極的に行ってゆく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々なところで色々な人が関わっていることを意識し相談できる体制を取って行く。 ・富士見市役所では福祉政策課に重層的支援体制整備事業が立ち上がった。3年かけて確立してゆく。 <p>《今後の課題》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人、家族の同意がないと動けない。強制力がない。 ・本人、家族の気持ちを変えることは難しい。 ・どこに相談していいかわかりづらい。 |
| 10月19日(木) 13:30～15:00 | <p>医師 1 名 自治会長1名 UR 2名 薬局2名 民生委員 2 名 介護支援専門員 3 名 生活支援コーディネーター 1名 健康増進センター1 名 施設職員 6名 高齢者福祉課 1 名 高齢者あんしん相談センター 4 名</p> <p>計 24 名</p> | <p>「地域包括ケアシステム構築の情報発信と双方のコミュニケーションを図る 」</p> <p>《ケース概要》</p> <p>75歳女性、独居 介護保険未申請、収入不明、家族は北海道に姉がいるらしい。令和5年4月ごろから外出回数減少、足を引きずっている。痩せており、食事をとっているか不明。夜に物音がする。ベランダにゴミが積まれている。</p> <p>《対応》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方は民生委員を知っているため、まずは民生委員と共に訪問すると受け入れもいい。 ・問題があっても表面化しない方も多いため、横のつながりをつくり、近隣から声を上げてもらえる関係が大切。 ・高齢者いきいきふれあいセンターで月1回開催される健康相談がある。そこに本人が行く事は困難だけれども、心配している近隣の方のみでも相談ができるので利用する。 <p>《今後の課題》</p> <p>高齢者はイベントなどがあっても自分で出てゆくことが難しいケースが多い。出かける足がない人もいる。介護保険のサービスだけではどうにもならないこともあり、助け合い隊などの社会資源の充実が求められる。地域住民だけではなく、関係機関同士がつながることも大切。</p> |